

文部科学省EDU-Portニッポン調査研究「非認知能力の育成に向けた  
特別活動の国際化と質保証に関する研究」報告会

2025年2月1日（土）於：国立オリンピック記念青少年総合センター

# エジプトにおけるTokkatsuの受容と その影響－インタビュー調査から

- 田中光晴（文部科学省）
- 添田晴雄（大阪公立大学）
- 相庭貴行（筑波大学大学院）



# 1. 本報告の目的と方法

# 1. 本報告の目的と方法①

## □ 本報告の目的

EJSと公立校におけるTokkatsuの受容と影響について、教師、Tokkatsu Officer (TO)、子どもへのインタビュー調査から検討する。Tokkatsuについての語りに着目することで、制度政策論な側面からはとらえられない受容や普及の課題、可能性を明らかにする。

### ・本報告の意義

- 現地での受容と普及過程をそれぞれのアクターの語りを通してみることで、Tokkatsuの新たな可能性について検討することができる
- Tokkatsuを推進するうえで設けたTOという独自の制度や教科担任制などを背景とするエジプトの例から日本の特別活動への示唆を得られる。

# 1. 本報告の目的と方法②

## □ 現地調査

- ・研究チームから14名が2023年12月25日～28日にかけて、カイロ周辺のEJS3校でインタビュー調査
- ・収集したインタビューデータ
  - EJS教員:5名
  - Tokkatsu Officer:10名(TO-a~TO-j)
  - EJS児童:2名
    - ※通訳あり(日本語—アラビア語)で1人あたり60分
  - 内容:Tokkatsuの普及・改善、今後のTokkatsuの展望
- ・分析方法
  - データごとに3チーム(教師、TO、子ども)で分析
  - 録音した音声データからトランスクリプトを作成、コーディング



# 1. 本報告の目的と方法③

## □ 文献調査

- ・エジプト教育・技術教育省EJS Project Management Unit作成
  - 『EDU2.0に基づくTokkatsu実践ハンドブック』(2020年)
  - 『EJS Tokkatsuモニタリングマニュアル』(2021年)
  - 『Tokkatsu教師用マニュアル』(2022年)
  - 『全国の公立学校へのTokkatsuベーシックの普及』(2023年)
- ・Tokkatsu研修・認証制度合同委員会が作成
  - 『エジプト国におけるTokkatsu研修・認証制度(TTCS)パイロットプロジェクト報告書』(2022年)  
※いずれも非公開(データ利用申請・承諾を得て使用)
- ・各チームで関連先行研究(末尾)の精読・分析枠組みの検討
  - 杉田洋(2018)「エジプトでのTOKKATSUの現状と可能性」『日本特別活動学会紀要』第26号、1-7頁。
  - Tanaka, Shinichiro. (2019). Tokkatsu plus in Egypt: Extending the Tokkatsu concept in Tsuneyoshi, R., Sugita, H., Kusanagi, K., & Takahashi, F. Tokkatsu: The Japanese educational model of holistic education. Singapore: World Scientific, pp. 225-250.
  - 山田真紀(2023)「特別活動の海外展開—エジプト・インドネシア・モンゴルでのTOKKATSUの実践を中心に—」『椋山女学園大学研究論集 人文科学篇・社会科学篇・自然科学篇』第54号、201-221頁。

# 1. 本報告の目的と方法④

## □ これまでの成果報告

- 京免徹雄・田中光晴・添田晴雄「エジプトにおける日本型教育モデルTokkatsu受容の構造的要因—現地主義アプローチに基づく内因・外因の分析—」日本比較教育学会第60回大会
- 添田晴雄・相庭貴行・土屋愛・安部恭子・秋山麗子「エジプト日本学校(EJS)におけるTokkatsuの受容とその影響—EJS教員対象インタビューの分析から—」日本特別活動学会第33回つくば大会
- 平野修・土屋愛・日野陽平・小泉琢磨・山田真紀「エジプトのTOKKATSUは子どもの成長をどう変えたのか～児童インタビューから～」日本特別活動学会第33回つくば大会
- 田中光晴・京免徹雄・樋口耕平・橋谷由紀「エジプトにおけるTokkatsuの普及に果たすTokkatsu Officerの役割」日本特別活動学会第33回つくば大会
- 相庭貴行・添田晴雄・林尚示・山田真紀「エジプトのTokkatsu実践からみえた日本の特別活動への示唆」日本特別活動学会第33回つくば大会において、課題研究4「エジプトの子どもからみた日本型教育とTokkatsu」

## 2. 教師の目から見たTokkatsu —EJS教員インタビュー—

## 2. 教師インタビュー①

### □ インタビューデータの分析

#### ・EJSの2校の教員合計5名へのインタビューデータを分析

参考：戈木クレイグヒル滋子『グラウンデッド・セオリー・アプローチ 改訂版—理論を生み出すまで—』

#### ・教員（5人）のインタビューデータを 切片に分け、ラベリング

—5人のインタビューの切片数合計279

#### ・分析の結果39のカテゴリーを抽出

#### ・これらのカテゴリーから6つの結果を導出

##### 【インタビューガイド】

- (1) 回答者の属性
- (2) Tokkatsu の捉え方
  - ①全人的な教育として非認知能力を育てる上で、Tokkatsu を実施する意義や役割をどのように捉えているのか。
  - ②日本の Tokkatsu では「自主性」「自発性」「自治」といった言葉が実践をする上で大切なキーワードになるが、エジプトではどのような言葉がキーワードになっているのか。
  - ③日本の Tokkatsu は、個人ではなく学級集団や学校集団を育てるという点に重きを置いて指導されるが、エジプトにおいて集団としてのまとまりをつくることに価値を感じているのか、いないのか。その理由は、なぜか。
- (3) Tokkatsu 導入・実践
  - ①Tokkatsu の中で、エジプト人の価値観に合致する形で、スムーズに導入・実施できたのはどのような活動か。
  - ②Tokkatsu の中で、はじめはエジプト人の価値観に合わないと思っていたが、やってみたらよかったと思うのは、どのような活動か。
  - ③Tokkatsu の導入・実践にあたって、最も難しさや抵抗を感じたところは、どこか。
  - ④Tokkatsu を導入・実践する際に、学校の特性に合わせて工夫したのは、どのようなことか。
  - ⑤学級会（話し合い活動）で、多様性を認めない同調圧力が生まれたり、集団による個人の抑圧が起きたりしたとき、どのように対処しているか。またそれらを、どのように予防しているか。
  - ⑥学級会（話し合い活動）において少数派と多数派に分かれた場合、合意形成に向けてどのようにアプローチしているか。
- (4) Tokkatsu の成果
  - ①Tokkatsu を導入したことで、児童にどのような変化があったか。変化がないとしたら、それはなぜだと思うか。
  - ②Tokkatsu を導入したことで、小さな社会である学級集団や学校集団にどのような変化があったか。
  - ③Tokkatsu を導入してあなた自身にどんな変化があったか。
  - ④Tokkatsu を導入したことで、学校における教師のチームワーク（同僚性）にどのような変化があったか。

## 2. 教師インタビュー②

### □ 考察①

- ・EJSの教員は、Tokkatsuの目的や意識を明確に捉えている。
- EJSの教師はTokkatsuのキーワードとして「協力する、参加する、責任を果たす」、「児童のふるまいがかわること」「自信をもつこと」、といった内容を指摘した。
- Tokkatsuは「人格形成のため、協力したり、責任を果たしたり、幸せになること」を目的とし、「あらゆる側面の人格形成を担って」おり、児童を「いろいろなことに対応できる人」「意見を発言できる人」に育てることを目的としていると述べるなど、EJSの教師たちは、Tokkatsuを実践する目的を明確に持っていた。

## 2. 教師インタビュー③

### □ 考察②

- ・Tokkatsuによって児童が協力し合い、人間関係を深め、意見が言える心理的安全性が構築されていると感じている。
- Tokkatsuの導入によって全般的に児童が大きく影響を受けたとEJSの教師は見ている。
- Tokkatsuの影響の結果として、児童どうしの人間関係がよくなり、授業中でも児童が協力し合うことが多くなったとしている。
- また、最初は学級の中で孤立がちであった特別ニーズの児童を周りの児童が支えるようになったこと、特別ニーズの児童が日直を経験することが大きな契機となったことなどを教師が指摘している。

## 2. 教師インタビュー④

### □ 考察③

- ・教師の手応え、児童の手応えがさらなる取り組みを生んでいた
- 教師は、上記②のような児童の変化を直接感じ取っている。
- 保護者からも、児童が家庭内でもきちんと掃除をしていること知らされ、Tokkatsu指導の素晴らしさを実感している。
- このような教師の手応えがあるからこそ、教師は、自らのTokkatsuの指導をますます進めて行くようになったのだと考えられる。

## 2. 教師インタビュー⑤

### □ 考察④

- ・少数派と多数派による建設的な合意形成の芽生え
- Tokkatsuのエジプトへの導入に伴って、日本の「同調圧力」という負の側面が悪い影響を与えるのではないかということの懸念
- しかしながら、この「同調圧力」という概念が、エジプト人にまったく伝わらないことを痛感。
- 反対意見に固執するひとりの児童を取り囲むようにして多数派が説得している場面を見て、これを多数決の変形と見たり、「同調圧力」の学習の始まりと見たりすることも可能である。しかしながら、現段階のエジプトの少数派の児童は、ひるまずに自己主張することができている。

## 2. 教師インタビュー⑥

### □ 考察⑤

- ・学級会への教師の指導の在り方が変化し、教育観が変化し、教科学習へも波及する
- Tokkatsuに取り組む教師は、児童の話合いの最中に介入しないことの重要性と、そのための手法を学んでいく。
- Tokkatsuを理解する以前は、「教室に入って理科の授業をして、説明をしたら自分の役割が終わり」と考えていたのが、Tokkatsuをはじめから、説明することだけではなく、「児童たちの考え方や感じていること全てを理解」することが重要だと考え始めるようになる。
- Tokkatsuによって、そして、児童の要望によって、アラビア語、算数、理科、体育や音楽の授業が、グループワークなどの学び合いを重視する授業に変容している。

## 2. 教師インタビュー⑦

### □ 考察⑥

- ・Tokkatsuにより教師集団も変化した
  - 「Tokkatsuの導入によって、教師の集団もずいぶんと変わり、「教師どうしのチームワークができるようになった」とEJSの教師が指摘している。
  - 「毎日退勤前に、教師たちで会議をし」、児童ひとりひとりの様子についての情報交換や意見交換を行ったり、授業研究を共同で行ったりするようになったとしている。
  - 「チームワークによって、びっくりするぐらい時間の余裕ができ」たという指摘もあった。

## 2. 教師インタビュー⑧

### □ まとめ

- ・6つの観点で触れたエジプトのEJSで起きていることの多くは、日本の特別活動のベテラン実践者が、かつて若手教員として試行錯誤しながら特別活動を創造してきた道のりと重なる。
- ・エジプトの教師らの語りから、特別活動の推進には、特別活動の目的や意義を明確にした上（考察①）で、特別活動を実践し、児童生徒の変化の手応えを実感することが重要で（考察③）、その際、とくに、児童生徒間の協力関係、人間関係の深化（考察②）、教科教育のやりやすさ（考察⑤）などの実感が伴うことが大切である。
- ・特別活動を充実させることによって、いわゆる学力を向上させることができると言われてきた。それに加えて、教科の新しい学びが模索されている現在こそ、特別活動の意義をもういちど見直すことが重要である。

# 3. Tokkatsu Officer (TO) が Tokkatsuの受容と普及に果たす役 割

—TOへのインタビューより—

### 3. TOインタビュー①

- Tokkatsuオフィサーとは
  - ・パイロットプロジェクトにおいてTokkatsuのマスタートレーナー数名を育成したことがはじまり。日本の特別活動について理解し、エジプトに広めていくための指導主事的存在。
  - ・EJSの新設により名称を改め、全国のEJSで指導とモニタリングを担う。2024年現在約160名。
  
- Tokkatsuオフィサーの採用過程
  - ・書類選考と1回の面接を経て教育省が採用。
  - ・地方教育事務所職員や現役の学校管理職などが、本業の傍らTOとして働いている。
  - ・待遇は本業で得る給料とは別に、活動実績に応じて手当支給。

## 3. TOインタビュー②

### □ TOへのインタビューとコーディング結果

- ・TO10人にインタビューを実施後、スクリプト化し分析。
- ・8テーマ、32カテゴリー（焦点化されたコード）
- 各「テーマ」はインタビュー・ガイドの質問項目に対応したものであり、「カテゴリー」は焦点的コーディングで付したコード、「コード」はオープンコーディングで付したコードを示す。「数」は、10名中何人がそのコードの内容に言及したかを示している。

テーマ① エジプトの教師のTokkatsu実態の潜在的な能力

テーマ② 学校の特性に合わせたTokkatsu導入の工夫

テーマ③ TOが教師を指導する際に必要な力

テーマ④ 公立校でTokkatsuが広がらない原因

テーマ⑤ TOによる指導の課題

テーマ⑥ Tokkatsuの普及に向けたTOの活動・期待

テーマ⑦ 自分の人生にとってのTOの意味

テーマ⑧ TTCSの有効性と課題

T0の実践  
と専門性

Tokkatsuの  
課題と可能性

### 3. TOインタビュー③

#### □ TOの実践と専門性(テーマ1~3)

- ・エジプトの教師に対する信頼
  - Tokkatsuをエジプトの学校に普及するために、それぞれがその学校や所属する教師、児童の状況に合わせてながら丁寧に推進
- ・TOが持つべき専門性
  - 言語力や聞く力、書く力、柔軟性、コミュニケーション能力
  - 教師に寄り添う態度
  - Tokkatsuに関する専門的な知識
  - ロールモデルとしての自覚
  - 子どもを中心に据える意識

TOに対する研修による一定の効果とも捉えられる。  
ロールモデルとしての自覚は、TOの専門性を議論する上で興味深い。

### 3. TOインタビュー④

#### □ Tokkatsuの課題(テーマ4,5)

- ・Tokkatsuに対する理解不足 —「新しいものはわからないから」
- ・リソース不足 —児童数の増加から施設不足、教員数不足が課題
- ・研修機会の不足 —管理職や教師に対するTokkatsu関連の研修不足
- ・教師指導の難しさ —「自分が正しいと思っている教師」が多い、教師交流が少ない
- ・学校・教育環境に付随する難しさ —教師の多忙さ、管理職の強い監督
- ・TO制度自体が抱える難しさ —TO制度に対する理解不足
- ・Tokkatsuの実践自体がもつ指導の難しさ —教科書がない、学級会実践が難しい

TOが学校に入るにあたり、Tokkatsuに関する現場の理解不足やエジプトがそもそも抱える教育環境の課題が難しさにつながっている

### 3. TOインタビュー⑤

#### □ TO制度とTokkatsuの可能性(テーマ6~8)

##### ・TOにとってのTO経験の意味

—「TOとして重ねてきた経験は私のキャリアにすごく大事なもの」

—自身の知や人生に対して影響があった

→ TO経験を肯定的に捉え、自らの生活にも取り入れる

—「話合い能力、研修でたくさんの方の前で話す能力、先生に研修したり、相手の気持ちを理解できる能力を得られた」

—「いろんな場面でいろんなしゃべるようになった。自分のこのアイデアを伝えたい。いろんな人に伝えたい。伝えたくくなりました」

TOは、Tokkatsuに意義を感じており、個人のSNSや学校訪問を通じてTokkatsu広報に貢献しているが、これらを体系的に後押しする必要がある。

## 3. TOインタビュー⑥

### □ まとめ

#### ・特別活動を指導・助言する者の専門性

- コミュニケーション能力、教師に寄り添う態度、Tokkatsuに関する専門的な知識
- どうやって先生たちに授業をしたり、説明するかという「プロフェッショナルな能力」  
「テクニカルなステップがちゃんと説明できる」という実践に関する知識、  
「Tokkatsuのフィロソフィ」「平等、正直、ジャスティス」というTokkatsuの哲学についての深い理解

#### ・質保証を担うTO制度

- TO制度は、エジプトで導入されたTokkatsuを指導・助言する者の養成システム
- 普及・定着を本務とするが、Tokkatsuの質保証機能としても作用する。
- 特別活動の実践を充実させていく基盤の1つとして、研修リーダーの養成、指導教諭・指導主事の配置の充実など、教師の学びを支える「教師教育者」(teacher educator) (篠原他、2022:66)の育成が重要

4. 子どもはTokkatsuによりどの  
ように変化したか  
—児童インタビューより—

## 4. 児童インタビュー①

### □ インタビューの概要

- ・実施時期：2023年12月25日～28日
- ・対象校：カイロ周辺のエジプト日本学校(EJS)3校
- ・対象者：EJSの4年生～6年生の児童15人
- ・時間：30分
- ・実施方法：通訳者をはさみ、インタビューガイドに沿って研究員と児童1対1で行う。

### □ インタビュー結果から見えた教育的効果

- ・カテゴリーとして整理した結果、「多様性の受容」「課題解決力」「人間関係の構築」「社会参画意識」「自尊感情／自己効力感」が得られた。  
→今回は「自尊感情／自己効力感」に着目して考察する。

## 4. 児童インタビュー②

### □ 児童インタビューから

- 「リスペクトされるのがうれしい」  
→ 自身の価値や能力を認められる喜び
- 「みんな喜ぶのでやる気が出る」「サポートするのが楽しい」  
→ 自身の能力を他者のために生かす充実感

児童が自己有用感の高まりを実感している

↓表：今回着目した児童2名

	実施日	学校	性別	学年	インタビュー時間
児童A	12/25	X校 (EJS)	F	6年	29分
児童B	12/26	Y校 (EJS)	F	5年	24分

↓表：児童インタビューの主な回答内容

質問内容	児童A	児童B
学級会に対する印象と実施したことによる変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>Respectされるのがうれしい</u></li> <li>● 自身：<u>意見が言えるようになった</u></li> <li>● 友人：否定ではなく<u>議論するようになった、ほめる</u>ことが増えた</li> <li>● 学級：家族のように<u>助け合うようになった</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 最初は意見聞かない人もいて少し大変だった</li> <li>● 自身：<u>自由に意見言えるように</u></li> <li>● 学級：<u>言っても大丈夫と</u>感じられるようになり、<u>相談すること</u>も増えた。ほかの時間も相談増えた</li> </ul>
日直に対する印象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リーダーになって<u>respectされる</u>ことがうれしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先生を<u>サポートするのが楽しい</u></li> <li>● 家でも家族を手伝うようになった</li> </ul>
掃除に対する印象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 最初は消極的だったが、<u>やるとみんな喜ぶのでやる</u>気が出た</li> <li>● 家でもやり方教えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>がんばっている</u>、家に戻ってもほうきの使い方などを教えている</li> </ul>

## 4. 児童インタビュー③

### □ 受験競争の激化と一方的な教師-子ども関係

- エジプトの学校:試験制度を中心とした学力重視の特徴(中島2017)、学力競争に
- Tokkatsuを通して、教師と児童の関係は「命令」から「話し合い」になった(教師インタビューから)  
→従来は教師が子どもに一方的に指示する関係

### □ 満たされない自己有用感

- 子どもたちは管理された環境のもとで学力競争に巻き込まれる  
→子どもは学力によって評価される存在となり、自己有用感を高めるような機会を得られず
- エジプトの子どもの課題としての、「自分が自分が」(=我先に)という態度(Tokkatsuオフィサーへのインタビューより)  
→満たされない自己有用感を得るため、他人のことは考慮せず自分の要求を通そうとする  
→子どもたちどうしも競争的な関係に

### □ エジプトの教育的課題に

- エジプトが当初日本式教育に求めたのも、「規律や協調性などの人格軽視などを重視する日本式教育」(杉田2018)であり、規律や協調性の育成が課題
- エジプト社会全体の問題として、他者の意見を聞く機会がなかった(Tokkatsuオフィサーへのインタビューより)

## 4. 児童インタビュー④

### □ 考察:エジプトの子どもにTokkatsuが果たした役割

#### 【エジプトの子どもの課題】

学校や社会の中で、自己有用感をはじめとする子ども自身の心理的ニーズが十分に満たされていなかった。

#### Tokkatsu導入前

「自分が自分」という態度で、児童が自身の能力を自分のみのために用いる  
→他者と衝突し、自己有用感が十分高まらない

#### Tokkatsu導入後

Tokkatsuを通して協力する、他者に手助けするなど、自身の能力を他者のために用いるという経験  
→感謝されることなどを通して自己有用感を高める  
=自身の心理的ニーズを「正しく」満たす経験

#### さまざまな価値を学び身につける

- 他者の意見を聞く
- 他者と協力する

## 4. 児童インタビュー⑤

### □ 社会文化を超えたTokkatsuの意義

- 日本の特別活動も、その深層における教育文化の一つとして「自律性」「所属感」「達成感」という心理的ニーズの充足に貢献することがあると指摘されている(京免2021)

⇒充足されるニーズの中身はエジプトのTokkatsuと異なるものの、心理的ニーズの充足という点は共通

### □ 日本の特別活動の課題を乗り越える

《**子どもの自主性**⇔**教師の指導性**》という問題



子どもが何を求めているのかということを把握し、特別活動を通してそれらのニーズを「正しく」満たしていくことができるように指導することが必要であると考えられる



心理的ニーズを把握するために、「**子どもの声**」を聴いていく取り組みを模索することが重要。

### ※エジプトのTOKKATSUと文化の関係について

- エジプトの学校では、イスラム教が非イスラム教徒にも受容可能な普遍的価値として教えられている(八木2022)。
- ⇒TOKKATSUはこのような普遍的価値を児童が学ぶ場としても位置づけられている？

# 5. おわりに

## 5. おわりに ーいくつかの示唆ー

### □ インタビュー調査を経て

#### ・エジプトにおけるTokkatsuの受容

- ー教師やTO、子どもの語りからTokkatsuは概ね好意的に受け入れられており、特に教師や子どもの語りからはTokkatsuにより、学びが良い方向に変化したなどの「手ごたえ」が捉えられた。
- ーTOは、そういった活動やそれに伴う「手ごたえ」を実感させていく支援制度として機能しているとともに、TO自身が自らの成長を感じており、普及活動が内面化されていた。

#### ・エジプトでの実践から得られる特別活動への示唆

- ー特別活動での実践は他教科での共同的な学びへと実践の転換が起こる。
- ー特別活動の実践を通じた教師間の協力体制の構築は、活動にゆとりを生む。
- ー特別活動の推進には「手ごたえ、実感」が伴うことが重要であり、それを支えるために専門性を有した教師指導者の育成・配置が有効である。

## 5. おわりに ーいくつかの示唆ー

### □ 今後の課題

#### ・データが有する課題

- ーサンプル数から今回のデータが、エジプトの教師、TO、子どもの認識を一般化することには限界があるが、少なくともどのような認識を持っているかの一端を示した点で意義がある。
  - ー適宜現地スタッフに事実確認等を行いながら、取り扱ったが、インタビューは日本語アラビア語通訳を介して行われたため、一部に通訳の解釈が入っている可能性がある。
  - ーEJSの教師・子どもやTOなど一定程度Tokkatsuに関心がある者であり、また日本の専門家からのインタビューということで、「良く」語っている可能性がある。ただ、概ねTokkatsuで強調している点と相違ないということを考えれば、共通に語られる(何が良いかを知っている)ということ自体にも意味がある。
- ・引き続き、エジプトでの実践を追いながら、日本の特別活動の在り方について検討したい。

# 参考文献

- EJS-PMU (2020) 『EDU2.0に基づくTokkatsu実践ハンドブック』、EJS-PMU (2021) 『EJS Tokkatsuモニタリングマニュアル』
- EJS-PMU (2021) EJS Tokkatsu Monitoring Manual: The Project for Creating Environment for Quality Learning
- EJS-PMU (2022) Teacher manual for Special Activities (Tokkatsu) 2022-2023
- EJS-PMU (2023) Government School Nationwide Tokkatsu Basics Dissemination Monitoring Manual
- JICA・パデコ (2016) 『エジプト・アラブ共和国基礎教育分野にかかる情報収集・確認調査 報告書』
- JICA・パデコ・国際開発センター (2021) 『エジプト国学びの質向上のための環境整備プロジェクト 事業完了報告書』
- 京免徹雄・田中光晴・添田晴雄 (2024) 「エジプトにおける日本型教育モデルTokkatsu受容の構造的要因—現地主義アプローチに基づく内因・外因の分析—」日本比較教育学会第60回大会、名古屋大学、2024年6月30日
- 京免徹雄 (2021) アメリカ人研究者からみた日本の特別活動の特質—日本型モデルの発信を視野に入れて— 『日本特別活動学会紀要』29号、pp.41-50
- 中島悠介 (2018) 「エジプトにおける“特別活動”を通じた日本式教育の導入と課題に関する考察：現地報道を手がかりに」大阪大谷大学教育学会『教育研究』43号、47-55頁。
- 中岡裕策 (2020) 『エジプトにおける特別活動を中心とする日本型教育の導入と受容に関する研究』(東京大学大学院新領域創成科学研究科修士論文)、23頁。
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社。
- 杉田洋 (2018) 「エジプトでのTOKKATSUの現状と可能性」 『日本特別活動学会紀要』第26号、1-7頁。
- Tanaka, S. (2019). Tokkatsu plus in Egypt: Extending the Tokkatsu concept in Tsuneyoshi, R., Sugita, H., Kusanagi, K., & Takahashi, F. Tokkatsu: The Japanese educational model of holistic education. Singapore: World Scientific, pp. 225-250.
- 山田真紀 (2023) 「特別活動の海外展開—エジプト・インドネシア・モンゴルでのTOKKATSUの実践を中心に—」 『椋山女学園大学研究論集 人文科学篇・社会科学篇・自然科学篇』第54号、201-221頁。
- 篠原清夫・米沢崇・脇本健弘 (2022) 「教育センター指導主事の資質・能力と育成の特徴に関する一考察」 『国立教育政策研究所紀要』第149集、65-83頁。
- 八木久美子 (2022) エジプトの公教育におけるイスラム—世俗的國家のなかの国教 『東京外国語大学論集』第103号、pp.83-~~99~~99

# ご清聴ありがとうございました。

謝辞:本研究は、令和5年度 文部科学省「日本型教育の海外展開 (EDU-Portニッポン)」調査研究「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究」の助成を受けた。

謝辞:本研究は、日本特別活動学会2023年度重点課題プロジェクト「グローバル・スタンダードとしての日本型教育モデルの開発—Tokkatsuの海外展開の分析—」の助成を受けた。

謝辞:本研究の実施にあたって、(独)国際協協力構およびエジプト教育・技術教育省 (MOETE) から、「エジプト国『学びの質向上のための環境整備プロジェクト』」および「特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト」のデータの提供を受けた。

付記:本研究は、筑波大学人間系研究倫理委員会の承認 (課題番号:筑2023-188A号) を得て、実施した。